



いる。また、自然換気を取り入れている。

問 施設の利用者数の想定と、目標値について。

答 拠点複合施設は、行政機能・公民館機能・図書館機能・子育て機能を持ち、年間のべ5万人の利用を目標としている。

問 目標の達成、利用者増加のため計画している事業はあるか。

答 市民検討委員会を設置して管理・運営について意見を頂く。事業が充実すれば利用者も増加すると見込んでいる。

問 子どもたちの利用について。

答 健診などの子育て支援機能や、授乳室・子ども用トイレ・椅子の設置などを検討している。

問 小中学生を対象とした事業についてはどうか。

答 児童クラブの運営状況とも勘案して、必要と判断できるものがあれば反映していきたい。

問 複合的な利用における商業的機能について。

答 飲食販売・フリーマーケットなどの意見については、管理運営について適切に

判断していきたい。

問 中心市街地の賑わい創出について。

答 まずは複合施設の管理運営をしっかり行い、市全体のみちづくりも視野に入れて方向性を検討していく。

問 拠点複合施設など、コンパクトシティの中心に集まる市民を見込んで事業をはじめるといふ問題があるのではないか。

答 商業施設の整備について、市としても必要性を認識している。民間のお力添えや相談があれば、しっかりと受けて参りたい。

熊谷桂子議員質問

防災体制の改善について

問 胆振東部地震から1年、自主防災組織・広報手段・避難所の確保・地域の防災対策、災害対策本部となる庁舎の耐震化についてなどの改善への進捗状況は。

答 災害対策は、自助が7

割・共助が2割・公助が1割といわれる。市民の防災意識の向上と、地域が主体的に向き合うことをバックアップしていく。車両やインターネットによる広報の改善、福祉避難所の拡大への取り組みを継続する。自主避難については、地域の防災組織が担当することであり、地域の自主性を尊重しながら、自主的に防災組織をつくれるよう、対策の充実に力を入れていきたい。

意見

現在、地球規模での気象の激変や、火山活動の活発化、地殻変動などで、様々な災害への準備が必要。高齢者と共働き世帯が多い地域事情をふまえた改善を。庁舎は市民生活を守る砦となる対策本部であることから、一日も早く市民が安心できるよう耐震強化（建替えを含め）を強く要望する。

聞こえのバリアフリーについて

問 超高齢社会の日本で、10人に1人が難聴者といわれるが、補聴器が高額

なため普及率が非常に低い。聞こえの低下によって脳への情報が制限されるため、うつ病や認知症の原因になる、緊急時の情報が不足することが大きな問題となっている。このような障害を防ぐために、聴覚検査の実施・先進地域のように補聴器購入費の補助や、耳鼻科で補聴器外来を実施できないか。

意見

うつ病や認知症の予防、災害対応のためにも、今後、幸福の黄色いハンカチ基金の活用も検討の上、高齢になっても難聴になって、誰もが安心して住み続けられるよう「聞こえのバリアフリー化を進めたまちづくり」を強く要望する。

君島孝夫議員質問  
国・北海道及び夕張市の三者協議について

問 今年度開催した三者協議の成果について

答 抜本的見直し以降の財政再生計画搭載事業の進捗と成果では、二、三年の本市人口減少率が鈍化してきたこと、及び本年一月の〇歳〜十四歳の人口が一年前と比較して増加に転じたことなどを事業実績の成果を述べた。総務省からも全体として順調に進んでいる効果を一過性に終わらせないため、今後につなげていくことが課題と述べられた。また抜本の見直し以降の効果が良い方向に現れていることが確認できたこと、双方顔を合わせて議論した今回の協議を三者で共有し検討していくための信頼関係が構築できたことも大きな成果だと考えている。

問 石炭博物館模擬坑道火災について国・北海道からどのような意見があったのか。

**答** 現在、模擬坑道内の水質検査、水処理方法及び水処理に係る経費等について検討していることを説明。国からは、現状確認と今後の取り組み方法等について詳細に情報共有を行った。

**問** 行政執行体制の確保について(給与改善の必要性)。

**答** 財政再建を成し遂げ「自立」していくためには行政自体の自立化が重要です。一点目「給料水準の改善」少なくとも給料水準が全国的に見て「平均値」であれば他自治体と遜色なく取り組むことが出来る環境を作り出せると考えている。二点目は、「ゆとりある職場環境づくり」にある。職場のゆとりは、人材育成や健康保持になくはならないもの。職員数については計画における最低限「全国都市最低数」にまで上げていく必要があると考える。いづれも計画の大幅な変更が必要。この問題は行政運営の根幹をなすものであると同時に財政再建の根幹部分でもある。

今後職員給与の早期改善を計画にしっかりと反映できるように国・北海道と協議を重ねて参る所存です。

**千葉勝議員質問**

**夕張学舎キセキノ  
について**

**問** 開設し一年四カ月が経過したが、この間の活動に對しての評価について。

**答** この間、公設塾において生徒一人ひとりに合わせた個別学習指導、様々な分野で活躍する方を招いた特別講演などの取り組みを行ってきた。開設から二年四カ月が経過したが、公設塾の目的である学力の向上や人材の育成などには一定程度の時間を要する。その評価についても同様と認識している。

**問** 八月二十日の北海道新聞の「奇跡を起こせ夕張高校」の記事の中で、教員は「夕張高の入試偏差値40ほど、学力水準が高い高校ではありませぬ」とコメントした真意について。

**答** 入試の偏差値は、雑誌

やインターネットでも公表されている。コメントしたことは、私が勝手に予想した数値をお話ししている訳でもございません。特別問題はございません。誰が入試の偏差値のことを話しても問題ないと認識している。

**再答弁**

この記事を最初から最後まで読んでいただければ、真意は読み取れるのではないかと考えている。教育長の立場だからこそ、夕張高校の取り組みについていつも敏感になつていなければならぬと思う。

**夕張高校魅力化事業  
について**

**問** 夕張高校魅力化検討会の役割、位置付け、メンバーについて。

**答** 夕張高校魅力化プロジェクト企画委員会での議論をするのに参考にするための有志による勉強会です。メンバーは、夕張高校の校長先生、地域住民の方、公設塾の講師、市職員等です。

**問** 夕張高校魅力化事業の新たな支援策「学生寮」

の創設について。

**答** 夕張高校魅力化検討会で市として「学生寮」の創設について議題に挙げたという認識はありません。検討会での意見交換で出席者から「学生寮」の創設についての話題があったと報告を受けている。

**高間澄子議員質問**

**市職員の負担軽減  
について**

**問** 市業務の外部委託について。職員採用に困難を極め、中途退職者も止まらないなど、行政体制の確保が厳しい状況にある現在、職員の負担を軽減することが重要であると考え。他自治体では窓口業務の民間委託化を実施している例が見られるが、本市は業務の委託化をどの程度まで検討されているのか。

**答** 来年度より導入実施となる「会計年度任用職員制度」に関し全課でヒアリングを実施し、将来に向け委託化が可能、検討が必要のある業務について

協議を行った。また建設課において、「市営住宅等の入居、退居に係る業務」や「住宅の小規模修繕」に関する業務を来年度から外部委託化の検討を進めていく状況にあります。

**問** 外部委託が可能な業務について。既に他自治体にて進められている「住民票など各種証明書の交付等窓口業務」の委託、運用について検討されているのか。

**答** 窓口業務の委託化については、検討するには至っていない。今後他自治体の実施、運用状況を見極め、費用対効果など財政面における影響度を勘案しながら慎重に検討していかなければならないと考えている。

**大山修二議員質問**

**道道1008号線  
(夕張長沼線)について**

**問** 道道1008号線の未開通(10km)部分の早期開通の重要性についてこの路線は、夕張市の新たな拠点と位置付けしている「清水沢地域」から

直接札幌方面へ向かう路線であり、救急搬送等「市民の安全確保」さらには、観光を含めた「関わり人口の拡大」の観点からも大変重要な路線であると考えますが、市長の考えを伺いたい。

**答** この夕張長沼線は、夕張市を起点とし長沼町までの総延長31・6kmの道であり、ご指摘のとおり、災害時の市外への救急搬送の時間短縮そしてシニアパラダム等への観光等将来的に重要な路線であると認識している。

**問** この路線について、夕張市議会と栗山町議会と合同で北海道議会さらには、北海道建設部と意見交換を実施したが、夕張市として北海道の取り組み状況について、どのように把握しているのか伺いたい。

**答** 夕張市としてはこれまでも、空知地方総合開発期成会を通じた要望を始め、国・北海道の社会資本整備に関する要望、道費に対する市町村要望でも取り上げ、不通区間の解消を要望している。

また、この事業は大規模事業となることから「費用対効果の算出値」など困難な状況にあると伺っている。

しかしながら、本年度軟弱地盤等について「地質調査」を実施し、南清水沢4丁目の変則交差点の取付形状の改良事業も再開すると伺っております。夕張市としても引き続き各種要望を継続していきたい。

**問** 「費用対効果の数値」のお話がありました。その数値だけで判断することなく夕張市の状況を総合的に考えるべき路線と考えるが、市長の考えを伺いたい。

**答** ご指摘のとおり、この路線の起点である清水沢は夕張市の新たな拠点を目指している地域であり「費用対効果の数値」だけではなく、夕張市のまちづくりの考え方や近隣自治体との連携を図りながら不通区間の解消に向けた要望を引続き行って参りたい。

## 決算審査 特別委員会

### 大綱 質問

#### 高間澄子議員質問

**問** 地域おこし協力隊が関わっている事業について。地域おこし協力隊の皆様には、志を持って夕張に来て地域振興にご協力いただいていることに感謝をしている所ですが、地域おこし協力隊は複数の課に採用され、それぞれに携わっています。実施した事業についての評価と効果について伺います。

**答** 教育委員会の子ども子育て支援に二名、文化振興支援二名、NPO体育協会二名、他に関わり人口創出事業一名、公設塾キセキノ三名、観光等イベントPR三名、六事業で十三名が関わっている。市庁舎に地域おこし協力隊で事務局を設置し、観光一元化を進めて行く計画の進捗状況や、最長三年務める人もいれば、一年で終わられる人

などの途中経過の報告を頂ければと思います。

#### 本田靖人議員質問

#### ふるさと納税の有効活用について

**問** 子どもたちの健全な育成に関する事業への寄附が著しく活用されていないことに対する教育長の考えについて。

**答** 今後の夕張のために、子どもたちを中心とする人づくりを傾注していかねばならない。そのために必要な教育に対する予算獲得に力を発揮できていなかったことを痛感している。

**問** 平成19年度以降の累計をみても教育分野への活用が進んでいないことに対する市長の考えについて。

**答** 平成30年度当初は3900万円の取り崩しを予定していたが、市の過疎債借入額増額で賄うことができたことにより取り崩し額を230万円に抑えることができた。令和元年度予算においては、5800万円を取り崩す

予定。次年度以降に基金を取っておくという目的で、財源を振り替えただけで、該当する分野での活用事業が少なかつたわけではない。



市議会と住民の意見交換会